

9条連 ニュース

— 世界へ未来へ —
Peace Constitution League
Since 1995.8.15
No.356

2024年10月20日 毎月1回 20日発行 1997年4月14日第3種郵便物認可

主な記事

- 巻頭言・福島県9条連再建に向けて…………… 1
- 先鋭化するクルド人ヘイトスピートの実像 …… 2～3
- ヤマトウに還流する辺野古利権…………… 4～5
- トップの座は大成建設から大林組へ…………… 6
- 地方報告・老いばれ記者の残日録…………… 7
- 政治展望台・読者のたより…………… 8
- 本の紹介・平和川柳・アーティクルナイン…………… 8

代表 浅井基文／浅野健一／植野妙実子／C・ダグラス・ラミス／常岡せつ子
中山弘正／樋口陽一／藤野美都子／山家悠紀夫
〒141-0031 東京都品川区西五反田3-2-13
目黒さつきビル303号
TEL 03-5747-9994
FAX 03-5747-9919



ホームページはこちら

<https://9joren.net/> E-mail: 9joren@ams.odn.ne.jp 創刊号1995年1月20日発行 定価100円 年間購読料1,500円(郵送料含む) 郵便振替口座 00160-2-96579「9条連」

昨年10月にイスラム組織ハマスとイスラエルの軍事衝突が起きて以来、イスラエルのガザ、ヨルダン川西岸の軍事作戦はより凄惨さを増し、非人道的として国際司法裁判所から国際法違反を勧告されています。イスラエルにより1967年の中東戦争以来続く占領ですが、今回の戦争犯罪はまさにジェノサイドです。

私たちの施設は「アウシュヴィッツ」を通して戦争や平和について考えてきました。ホロコーストの時代にあれだけ過酷な状況を強いられたユダヤ人が今、なぜ、同じことをパレスチナ人に行っているのか？誰もが素朴に疑問を投げかけることでしょう。私はこう思っています。「アウシュヴィッツ」はユダヤ人の負の歴史ではなく、人類の負の遺産であり、誰かが再び起こしうる負の歴史として捉えなければならぬ。その意味で「アウシュヴィッツ」の普遍性が問われると考えています。

ロシアとウクライナの戦争も終息の兆しは見えません。最近、来館者に若い方が増えています。毎日のように戦争の映像が流れることで、「戦争」が「身近」に感じられるのではないのでしょうか！当館は、昨年20周年を迎えました。当初から関わっている方は20周年を重ねました。本当はこういう施設はない方が良く



福島県9条連
再建に向けて

小淵 真理 (福島県9条連共同代表)

思ってきましたが、残念ながら地球上から戦争や紛争は無くなりません。その意味で、まだまだ当館の役割は大きいのだと言わざるを得ません。次の世代にバトンを手渡すことができるよう、年長者からも元氣とパワーをもらい孤軍奮闘の日々は続くでしょう。

9月に宮城県9条連「平和学習行動」があり8人の方が来館されました。私も参加させていただきお話を伺うと、毎年の総会が開催していたものの、コロナ禍もあり思ったように活動ができなかったとのことでした。福島県9条連も同様にコロナ禍を機に総会はじめ諸活動が停滞しているのが現状です。

今回の参加者のお一人で福島県の方が福島県9条連を「再建」しなければならぬと発言されました。私はハッとしました。確かに何も活動が出来ていなければ周囲からは忘れさられ消滅したと思われても仕方ありません。9条連ニュースを読み、全国で頑張っている様子を知らながら当地ではサボっていたのだと不甲斐なさを感じています。憲法改悪が叫ばれている中、ボォーとしていることは許されません。

自民党政権は、憲法9条に自衛隊を明記するための論点整理を決定しています。着実に「戦争する国」へと変化を遂げているのです。今こそ、平和憲法の理念に立ち返ることが喫緊の課題になっていると感じます。まずは多くの仲間へ声をかけ、ご協力・ご支援をいただきながら「福島県9条連」再建にむけて活動を進めてまいります。

来年は敗戦80周年、アウシュヴィッツ強制収容所解放も80周年です(1月27日)。全国で様々な計画がありますが、平和憲法9条に守られて誰一人戦場で命を奪われることもなかった日本が、今こそ世界中に9条の理念を発信していく使命があると思います。

おぶちまり／NPO法人アウシュヴィッツ
平和博物館館長・理事長